

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	おり〜ぶ鈎取		公表日		令和7年3月21日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	静かに過ごす部屋、おやつを食べつ部屋など、部屋ごとに役割を持たせている。	リビング以外に部屋はあるが、スタッフの関係で利用できない時がある。動きたい利用者もあり、リビングだけでは手狭に感じることもある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			定員利用100%に至らないが、希望が11名を超えた際に、体制が取れず受入れができない日があった。保護者就労など事情があるため受け入れ体制を構築したい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	玄関はスロープを設置している。一人ひとりの状態像は職員間で把握に努め、傍につくなど転倒防止等に努めている。	古い建物のため、段差は多い。トイレが押戸のため、利用が中で倒れるなど生じた際にはあけられなくなると認識している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	2		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1		事業所で何をしているかわからないという意見を真摯に受け止めた。HUGシステムを導入したので、今後は連絡にも写真を活用したい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		第三者による外部評価は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		階層別研修や外部開催の研修にも参加している。	各種研修の機会を確保したが、都合により欠席となることもあった。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		令和7年3月に公表予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		SMの理解を進め、アセスメント力の底上げを実施している。面談や日々の送迎の機会に意向を確認している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		SMの理解と活用を進めている。一人ひとりの課題の共有はより深く行っていきたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		SMの活用、仙台市の放デイ共通のアセスメントシートを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインに照らし、領域ごとの支援を意識している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		支援職員で意見を出し合い行っている。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	季節を意識した内容や発達段階に合わせてアレンジできるよう工夫している。 スタッフの得意分野に偏らないようスキルアップを意識したい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	一週間ごとに設定活動を決め、参加については、一人ひとりに合わせた取り組み方をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	送迎前にうちあわせや担当を決めている。 長期休暇や早帰りの際は難しいこともあるため、連絡ノートを活用。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	4	支援後に全スタッフが揃っていない為、いないスタッフには後日共有できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	毎日の記録は、様子や身体拘束等について行い、支援計画等の見直しの際に振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		可能な日には、担当者と児発管の2名体制で参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。				相談支援事業所やアーチル、なないろ等とのつながりはあるが、医療機関等とのつながりはあまり持っていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		必要時応じて実施している。 トラブルの未然防止に努めたい。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		おり〜ぶ間での情報提供・共有はできているが、他事業所との相互理解はまだだと感じている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	卒業時など必要に応じて情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		アーチルやなないろへスーパーバイズを求めたり、研修の機会を設けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	近隣のこどもと挨拶を交わすことがある。	障がいのない子供も行くような場所へ活動することはあるが、直接的な交流はほとんどない。次年度に向け、どんなことが出来るか検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2	太白区の協議会や、その中での児童分野の集まりにも可能な限り参加して顔の見える関係作りに努めている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡ノート、LINEを活用し保護者と情報共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3		ペアレントトレーニングの手法をもちいた支援力を磨きたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用契約を1年ごと取交していることで、変更事項も含め説明できている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	1	定期的な面談で実施している。	

	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	1	保護者研修会として、年2回4おり〜ぶ合同の茶話会を実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情解決制度の体制を整えている。相談や要望には真摯に対応し、苦情に繋がらないよう努めたい。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		月のお知らせや広報誌（おり〜ぶ通信）を発行。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	1	こどもへの配慮には工夫していきたい。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7		町内会の花火大会に協賛しており、地域の事業所であることを認識いただいているが、事業所行事への地域住民の参加には至っていない。
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	繰り返し実施し、見直しもしていきたい。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		繰り返し実施し、見直しもしていきたい。	
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用開始のアセスメント時や服薬の変更があった際には、情報提供いただき状況把握を行っている。	
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	3	現在は重度のアレルギーの方は在籍していないが、必要に応じて対応できるよう整備したい。	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		毎月の職員会議で、ヒヤリハット事項の確認を行いリスク管理を行っている。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		事業所内にて研修の機会を設けたり、法人単位で合同研修を行い、その内容をフィードバックしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		計画書の作成や見直し時期には、身体拘束の開始や解除の検討を行い、保護者に説明している。		